

懐かしの思い出などを、各県人会ごとに自由に語っていただくコーナーです。

阿波踊り“鯨ほこ連”と蜂須賀家 ～愛知とふるさと徳島～

米田 展之 中部徳島県人会会長

現在の中部徳島県人会は、愛知、岐阜、三重の3県をカバーしていますが、三重県人会（会長は三重大学学長の内田淳正氏、事務局長は三重県経営者協会・専務理事を務めている横田正典氏）は独立的に運営されています。私どもの総会には約



「鯨ほこ連」女子による男踊り(H23.1月県人会新年互礼会)



中部徳島県人会 会長
米田 展之氏

100名の会員が出席します。

中部徳島県人会というと、傘下の阿波おどり「鯨ほこ連」を抜きにしては語れません。今回は、その「鯨ほこ連」をご紹介します。

中部徳島県人会は、昭和39年に「名古屋徳島県人会」として発足。それと並行して、故郷の徳島を宣伝するため、阿波おどり「鯨ほこ連」が有志により結成。名前は、名古屋城のシンボルの「鯨鉦」から取ったとの由。名付け親は、県人会の元副会長

を務められた助野利次、藤川清（夫妻ともに故人）、中村信夫の各氏ら。現在の連長、遠藤正巳氏は5代目。これまで発展してきたのは、

創設時に並々ならぬご尽力をされた助野利次・初代連長によるところが大きいと言われています。

現在、鯨ほこ連はお囃子

を含め、総勢約80名の陣容を誇ります。県人会総会はもちろん県内外の各種イベントや、徳島と縁の深い美和町主催の創作オペラ『美和阿波おどりの輪』に出演したり、民謡内藤流 藤栄会とモダンバレエ団体とのコラボによる『Odoru阿呆によるMiru阿呆く阿波踊りのルーツは信長だった』に出演したりと、大活躍。

最初は徳島県出身者が核となつて発足した鯨ほこ連が、今や圧倒的に地元愛好者（血筋的には徳島と関係がない）が阿波踊りを通して故郷・徳島をPRしてくれるのですから、本当に有難いと感じています。

注①美和町

（初代の阿波藩主・蜂須賀家は愛知県海部郡美和町に現在、あま市の出身。豊臣秀吉の四国平定で功績のあった蜂須賀小六正勝の長男に当たり、父に代わって阿波に入府。美和町には、「蜂須賀」という名前の交差点や、蜂須賀家の菩提寺「蓮華寺」があります。）



蓮華寺境内



阿波踊りを奉納する鯨ほこ連



美和町内の蜂須賀城址にある正勝の顕彰碑

戦下に見た赤く小さな太陽

木根内 美樹

徳島交流大使



1938(昭和13)年徳島市生まれ。徳島県城東高校卒業後、大阪通信病院高等看護学院に入学。1960(昭和35)年同校卒。看護師として病院勤務のかたわら、1964(昭和39)年セツモードセミナー研究科卒。1967(昭和42)年武蔵野美術大学商業デザイン科中退。60歳定年まで(愛知県では26年間)病院勤務。趣味は油絵、写真、ブログを書くこと。娘2人と3人の孫に恵まれている。

私は城東高校の近くの、昔は堀川前といわれた所で生まれました。堀川とは蜂須賀城址のお堀のことで、人工的に作られた溜め池です。戦後、堀川前は徳島町となり、今も昔の姿のままお堀の石垣と石橋が現存し、白鳥が優雅に泳いでいます。

変わったものは道や家並、そして人々の生活でしょう。私の断片的な記憶の中にある思い出の一つに「日の丸弁当」というのがありました。アルミ製の薄くて平らで四角な弁当箱の中にご飯を詰め、その真ん中に赤い梅干しが一個あるだけ。ご飯は米だけでなく、麦も入っていたよう

に思います。

私が小学校1年の1学期に、戦災に合いました。第2次世界大戦の終結直前、広島と長崎に原爆が投下される少し前、徳島市も夜襲

に合い、街は火の海になったのです。B29の飛行機による空爆で、警戒警報のサイレンが連続して鳴る中、母に連れられ姉弟と一緒に近くの城山にある貝塚の洞穴に逃げ込みました。空爆の焼夷弾は、その洞穴前の公園の四阿あずまやにも落ちて燃え上がり、爆音と煙が辺り一面に立ち込めました。そのうち軍服を着た人がやってきて、「ここにいと危ない。城山の裏手にある洞穴の方に移るように」と勧めました。洞穴に避難していた数家族の女性や子どもたちはそれぞれに次ぎの洞穴に向かって移動を始めましたが、池

を渡って逃げるしか道はありません。お城の庭園の池の一つだったそこは水草がいっぱいで、逃げていた間に私の靴は脱げてしまいました。大人は出来るだけ体を低く小さくして水面からは首だけを出すようにして逃げたのですが、低空飛行の戦闘機

が木々の間から機関銃でバババ！と撃ちながら飛び、目の前で弾に当たって水に沈んでしまう人を見ながらも、私は必死で裏山に逃げました。



飛行機が去っても煙は残り、次の朝に見た太陽は、いつもなら白く輝いているはずなのに小さくて真っ赤でした。もう絶対しにくない夏の思い出です。

Memo 中部徳島県人会

昭和39年に「名古屋徳島県人会」が創立。初代会長は故・西川芳一氏(昭和39年～51年)。2代会長は、日本弁護士連合会の副会長を務められた故・吉田清(昭和51年～平成6年)氏。3代会長は故・西谷重信氏(平成6年～8年)。4代会長は藤田幸孝氏(平成8年～13年)。5代会長が現在の米田展之氏(平成13年～)。会のモットーは、「利害・社会的な差異・年齢差を超え、会員が集まれば談笑し、くつろぎ。そこから生きる力を再生していける県人会」。県人会の行事としては、毎年6月の総会、1月の新年互礼会に加え、ゴルフ部会(年3回)、マージャン部会(年2回)、バス旅行部会(年1回)、カラオケ部会(年2回)の4部会を運営。年1回県人会会報誌「すだち」を年初に発行。

●連絡先／〒460-0008 名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル4F 徳島県名古屋事務所内
TEL.052-262-4677 FAX.052-262-4678